

「郷土研所蔵の古文書の目録公開と研究2」事業の進捗状況について

神谷 智（事業責任者）

愛知大学総合郷土研究所（郷土研）には、長年にわたって収集されてきた歴史的古文書が多数所蔵されている。仮目録をもとにして古文書の点数を数えると合計で5万点を超える。収集された古文書の多くについては仮目録がすでに作成されているが、これはあくまでも「仮目録」であり、体裁も統一されておらず、内容の検討も必要となる。またこの仮目録は研究所に配架して閲覧には供しているが、広く一般にみられるものとはなっていない。

こうした状況を克服するため、形式や内容がきちんと整備された目録を作成し公開する事業を2016年度から開始した。従来の仮目録の内容を点検して整備された「目録」を作成し、冊子目録として刊行するとともに、目録のデータベースをホームページ上で公開するというのが具体的な作業である。また、目録作成の作業や作成された目録をもとにして、古文書にかかわる研究を進めることも目的としている。

2018年度までに「郷土研所蔵の古文書の目録公開と研究」事業として、旧三河国渥美郡関係の文書8,567点の目録データベースの作成を進め、冊子目録を2冊刊行し、ホームページ上で公開し終わった。また2019年3月23日には豊橋校舎で、「古文書が語る豊橋・渥美一愛大郷土研所蔵文書から一」と題し、この事業の意義や成果と、整理で判明した近世近代期における旧三河国渥美郡についての新たな歴史的事実を紹介する記念講演会を開催し、この事業の成果を大学内外に広く公表した。

「郷土研所蔵の古文書の目録公開と研究2」の事業については、2018年度から2020年度

までの3ヶ年計画で、総合郷土研究所に所蔵されている歴史的古文書のうち、2016年度から2018年度までに作成された旧三河国渥美郡を除いた、そのほかの三河地域にかかわる文書約8,100点を対象に、文書の再点検と目録データベースの作成を行い、冊子体の目録を刊行し、すでに構築されているホームページ上で公開するためのシステムに冊子目録に対応したデータベースの公開を行うことになっている。

2018年度においては、このうちの半数を超える、東三河地域（宝飯郡・八名郡・設楽郡）5,815点の古文書の内容を再点検し、目録データベースを作成し、冊子目録刊行しかつホームページ上で公開するための準備を完了した。

2019年度においては、この2018年度に再点検を終え作成された東三河地域（宝飯郡・八名郡・設楽郡）5,815点の古文書の目録データベースについて、実際の冊子目録刊行とデータベースのホームページ上での公開の作業を進めている。この目録に収録する文書群（かつての所蔵者ごとの文書のまとまり）は、本紀要の前輯（64輯）の表2に掲載されている。この冊子目録刊行作業とデータベースのホームページ上での公開の作業は、おもに田中博久（中部大学大学院博士課程前期修了）が担当している。

さらに残りの西三河地域にかかわる約2,300点の古文書の内容を点検しているが、12月末時点で点検を終えた古文書の点数は約1,500点ほどとなっている。対象となる文書群については、別表の通りである。この文書再点検、およびデータベース作成の作業もおもに田中博久が担当している。なお実際の

冊子目録刊行とデータベースのホームページ上での公開の作業を進めている。

また目録の体裁や記載内容などについて決める必要があるため、ほぼ月に一度のペースで、関係するメンバーの会議を開き協議を重ねている。この会議には田中博久のほか、松坂家文書など別の目録作成作業を行っている荒木亮子、事業責任者である山田邦明・神谷智が参加して、話し合いをしている。

別表

額田郡岡崎能見町文書
額田郡明大寺村龍海院文書
額田郡横落村文書
岡崎市池田節太郎氏旧蔵史料
幡豆郡瀬戸村永井家文書
幡豆郡津平村大竹家文書
幡豆郡寺津村境屋文書
幡豆郡平島村文書
幡豆郡平坂村榎本家文書
幡豆郡宮迫村星野家文書
碧海郡牛田村野村家文書
碧海郡郡小川村文書
碧海郡刈谷町文書
碧海郡刈谷町浅井家文書
碧海郡河野村文書
碧海郡高棚村石川家文書
碧海郡高浜村杉浦家文書